

Press Release

2018年3月29日

DNDiと製薬企業7社によるコンソーシアム 「顧みられない熱帯病創薬ブースター」への参画

アステラス製薬株式会社(本社:東京、代表取締役社長 CEO:畑中 好彦、以下「アステラス製薬」)は、Drugs for Neglected Diseases *initiative**¹(以下「DNDi」)および製薬企業7社*²と共同研究契約を締結し、「顧みられない熱帯病(Neglected Tropical Diseases、以下「NTD」)創薬ブースター」に参画しましたので、お知らせします。今回参画するコンソーシアムは、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金*³(以下、「GHIT Fund」)から資金提供を受けています。

NTD 創薬ブースターは新たな抗寄生原虫薬(リーシュマニア症*⁴、およびシャーガス病*⁵)のリード化合物*⁶を創出することを目的にしたコンソーシアムです。本契約に基づき、アステラス製薬は DNDi から提示されるシード化合物*⁷をもとに寄生原虫に有効性を示す可能性のある化合物を当社が保有する化合物ライブラリーから探索し、DNDi に提供します。DNDi は、その化合物のスクリーニングを行い、改良されたヒット化合物*⁸を選択します。各シード化合物に対しコンソーシアムのメンバーがこのサイクルを最大 3 回繰り返すことで、協働してリード化合物の創出を目指します。

NTD は、主に開発途上国の熱帯地域、貧困層を中心に蔓延している寄生虫、細菌ウイルス感染症のことで、WHO で焦点を当てている 20 の疾患群*⁹だけで、世界で 10 億人以上が感染していると言われており、深刻な社会問題になっています。

アステラス製薬は、本コンソーシアムを通じ、世界中でリーシュマニア症、シャーガス病に苦しむ患者さんのための新たな治療薬創出に貢献するとともに、引き続き保健医療へのアクセス(Access to Health)課題の解決に取り組んでいきます。

なお、2016 年 4 月に公表した国立研究開発法人産業技術総合研究所との抗寄生原虫創薬(シャーガス病)に関する共同研究は、契約期間の満了をもって終了しました。本共同研究では、ゲノム編集技術により寄生原虫生存に必須の分子を見出していくための技術基盤を整備しました。これらの技術基盤を活用することで創薬妥当性の高い標的分子選択が可能になりました。

***1 DNDi(顧みられない病気の創薬開発イニシアティブ)**: 顧みられない病気の治療薬開発 (R&D) に取り組む非営利財団です。リーシュマニア症、アフリカ睡眠病、シャーガス病、フィラリア症、小児 HIV、マイセトーマ(菌腫)、C 型肝炎で苦しむ顧みられない患者に、安全かつ効果的で、低価格の新たな治療薬を届けることを目指しています。特にシャーガス病およびリーシュマニア症に対し、新たな化合物のスクリーニングと治療薬開発を重点的に進めています。2015 年、DNDi は製薬パートナー4 社と NTD 創薬ブースターを立ち上げ、アステラス製薬が 8 番目のパートナーとして参画しました。

<http://www.dndi.org/diseases-projects/open-innovation/drug-discovery-booster/>

<http://www.dndi.org>

***2 製薬会社 7 社**: エーザイ株式会社、塩野義製薬株式会社、武田薬品工業株式会社、AstraZeneca plc、Celgene Corporation、Merck KGaA、AbbVie です。

***3 GHIT Fund**: HIV/AIDS、結核、マラリア、顧みられない熱帯病等、特に開発途上国の人々を苦しめる感染症の制圧を目指し、日本の技術、知見、イノベーションを用いた治療薬、ワクチン、診断薬の開発を目的として 2013 年に設立された国際的な非営利団体です。日本国政府(外務省、厚生労働省)、民間企業、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、英国の財団であるウェルカム・トラスト、国連開発計画が参画するグローバルヘルスの製品開発(R&D)に特化した世界初の官民パートナーシップです。

***4 リーシュマニア症**: リーシュマニア症は世界 98 カ国で発症が認められ、3 億 5 千万人の人々が感染のリスクにさらされています。感染を引き起こす原虫はリーシュマニアと呼ばれ、サシチョウバエによって媒介されます。治療しなければ死に至る内臓リーシュマニア症、皮膚に傷痕を残し社会・経済的な二次被害をもたらす皮膚リーシュマニア症など複数の型があります。既存の治療薬は投与が難しく、毒性があり、高コストです。薬剤耐性の問題も深刻化しています。

***5 シャーガス病**: シャーガス病は、中南米の 21 カ国に見られ、それらの国ではマラリアを含む寄生虫疾患の中で死亡者が最多となっています。世界では合計 7,000 万人が感染のリスクにさらされ、米国、オーストラリア、ヨーロッパなど流行地以外の地域における患者数も増えています。サシガメと呼ばれる昆虫によって媒介され、治療しなければ死に至る可能性があります。既存の治療薬の効果は低く、強い副作用があります。

***6 リード化合物**: ヒット化合物の中で薬理活性が確認され、最適化(活性、物性、薬物動態、毒性などを改善すること)研究を行うためのものとなる化合物。

***7 シード化合物**: スクリーニングなどによって見出されたある程度の活性を持つ化合物。

***8 改良されたヒット化合物**: シード化合物をもとにして、さらなるスクリーニングによって見出された活性が向上した化合物。

***9 WHO で焦点を当てている 20 の疾患群**: ブルーリ潰瘍、シャーガス病、デング熱/チクングニア熱、ギニア虫感染症、包虫症、食物媒介吸虫類感染症、アフリカ睡眠病、リーシュマニア症、ハンセン病、リンパ系フィラリア症、マイセトーマ(菌腫)、河川盲目症、狂犬病、疥癬、住血吸虫症、土壌伝播寄生虫症、毒蛇咬傷、条虫症/囊虫症、トラコーマ、風土性トレポネマ症

アステラス製薬について

アステラス製薬株式会社 (<https://www.astellas.com/ja>) は、東京に本社を置き、「先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する」ことを経営理念に掲げる製薬企業です。既存の重点疾患領域である泌尿器、がん、免疫科学、腎疾患、神経科学に加えて、新たな疾患領域への参入や新技術・新治療手段を活用した創薬研究にも取り組んでいます。さらには各種医療・ヘルスケア事業との融合による新たな価値創出にも挑戦しています。アステラス製薬は、変化する医療の最先端に立ち、科学の進歩を患者さんの価値に変えていきます。

注意事項

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラス製薬の業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

お問い合わせ先:

アステラス製薬株式会社

広報部

TEL: 03-3244-3201 FAX: 03-5201-7473